

令和四年度

渋谷教育学園渋谷中学校 入学試験問題

国語

※ 解答は、必ず解答用紙の指定されたところに記入しなさい。

※ 「〇〇字で」、または「〇〇字以内で」、という指示がある場合は、「。」「。」「
「かつこ」なども一字と数えます。

— 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

【野球の強豪校に通っていた鉄二は、上級生から暴行を受けていた同級生をかばって暴力事件を起こしてしまふ。それが原因で退学せざるをえなくなり、実家近くの高校に編入することになった。しばらくして、結婚して家を出ていた姉の真央(鉄二には魔王と呼ばれている)が実家に戻ってきたのだが、その理由は明かさない。何があつたのか気になった鉄二は、クラスメイトの菜々子とともに、姉の夫である勇の実家を訪れ、勇の母に事情を聞いた。】

「……きょうのこと、お姉さんに話す?」

「黙っててもそのうちばれるだろ」

「どう話す?」

「……さあ」

勇の母親、姉の姑は、突然押しかけてきた鉄二たちを戸惑いつつ部屋に上げてくれた。そして時折涙ぐみながら話した。

勇に難しい病気が見つかり、今は入院しているということ。進行性の病で、徐々に筋肉が衰え、自発呼吸も不可能になって、必ず死ぬこと。それが一年後か十年後かは個人差があるが、いずれにしても看病と介護の負担は計り知れない。だから勇は離婚を申し出たのだということ。生命保険金を「トッキョ」の母に遺してやらねば、という事情もあつたらしい。

——ごめんなさいね、あの子、ああ見えて頑固で、言い出したら聞かないんです。

勇の母は頭を下げた。

——でもわたしも離婚には賛成なのよ。真央さんはまだ若いんだから、勇のために人生を捧げてしまわないでほしい。

(1) 勇の頑固が、魔王の頑固を挫いた。姉もまた、気持ちで負けて戻ってきた。やはり魔王は、最後には勇者に倒される運命なのか。

「悔しいね」

菜々子が言う。

「※負けてばっかできさあ……何かひとつでもいいから、勝ちたいよね」

夕方、家に帰ると姉は庭先で洗濯物を取り込んでいるところだった。

「遅かったのう、何しとったんじゃ。テストが終わった途端遊び呆けよんか、ええご身分じゃのう」

「姉ちゃん」

「何じゃ」

「勇さんのこと、聞いてきた」

姉はさつと顔を強張らせると、洗濯物をいっぺんに抱えて縁側に放り投げ、鉄二に背中を向けた。

「姉ちゃん」

「誰にも言うな」

「言わねえけど……どうすんの?」

「分かん」

(2) 途方に暮れた、魔王にあるまじき声だった。

「管につながれて、まぶたも動かせん、声も出ん、そんな姿を見られとうないって言われたんじゃ。元気な姿だけを覚えていてほしい、それが一生の願いですって言われたら、わしゃどうすりやあええ。……いつか新しい薬やらができて治るかもしれん、言うたら、奇跡の話をするな、って、勇が怒ったんよ。初めて、わしに。その希望に僕は耐えられないゆうて、泣いた。自分が、なーんの覚悟もなくて、勇の苦しさなんぞいっこも分かってやれとらんかったのが恥ずかしゆうて悔しゆうて、わしは……」

泣いてはいない、けれど魔王の広大な背中が初めて頼りなく見えた。鉄二は二階に上がり、姉の部屋にある離婚届の束を改めて手に取った。一枚ずつゆくりめくっていくと、最初は端正だった勇の筆跡がだんだんといびつになり、最後にはのたうつようにふるえていた。みるみる自分の身体がままならなくなる恐怖、それを目の当たりにする恐怖、何枚も何枚も突きつけられるさよならを、姉はどんな気持ちで受け取り、溜め込んできたのだろう。

それから姉は、数日部屋に引きこもったかと思うと、朝早く出かけて行つた。「バイトらしいわ」と母が言う。

「②ソウコ作業だつて。あの子、フオークリフトの免許持つてるから」

「そのうちパワーショベルとか乗り回すんじゃないか」

のんきな両親に全てぶちまけてしまいたい衝動に駆られたが、ぐっとこらえる。バイト先のソウコは家から十キロも離れていて、徒歩で往復する姉に「もっと近くに何かしらあるでしょうに」と母は呆れていたが、とにかく身体をこき使って現実から逃避したい気持ちで鉄二にはよく分かった。姉はビニール袋に閉じ込められてばくばくと喘ぎ、もがいている。勇もそのはずなのだ。(3) だったらせめて同じ水の中にいればいいのに。鉄二は毎日駄菓子屋に通い、掃除や雑用を引き受ける代わりにただで金魚すくいの練習をさせてもらった。没頭するうち、金魚たちがどう動くのか予測し、先回りしてすぐえるようになっていった。何の役にも立たなくとも、進歩は嬉しい。過ぎ去った時間に意味を与えてくれるからだ。夏休みに入り、七月が終わり、二度の原爆忌と終戦の日が巡る。

(4) 八月下旬、晴れた日曜の朝、鉄二は姉の部屋の前に立ち「きょうだぞ」と声をかけた。

「姉ちゃんが言い出したんだろ、金魚すくい選手権。住谷さんがわざわざお揃いのTシャツ作ってくれたんだよ。姉ちゃんの分、置いとくから。XXXXLな」

襖の向こうからはうんともすんとも返ってこなかったが、姉は聞いていると思った。

「行こうぜ。ひとつでも勝とうぜ。勝って、勇さんと帰れよ」

こんなお遊びに優勝したところで、何にもならない。償いも解決も仕返しもできない。でも、勝ちたいのだ。ささやかに、ちっぽけに、勝利を飾りたい。小さな勲章で胸を張りたい。大丈夫、やっていけるよと。

会場の総合体育館に行くと、受付の前で菜々子が待っていた。

「鉄二くん、お姉さんは？」

「まだ」

「そう……」

体育館と隣接する公園には屋台が並び、すでに煙と呼び込みの声がひしめいている。テレビの取材も来ていて、この狭い町の一大イベントにふさわしいにぎわいだった。参加者の列が次々と手続きを済ませゼッケンを受け取るのを、⁽³⁾ チョクシヤ日光に灼かれながら見ている。アスファルトの地面に落ちる自分の影に汗が落ちてまたさらに濃いしみを作る。暗い場所には果てがない。

『間もなく一次予選が始まります。受付を済ませていないチームの代表者は至急会場入口のテントへお越しください』

新品のTシャツがじつとりと汗に濡れ、背中にへばりつく。まじで不戦敗かよ、という不安がよぎった時、遠くから伝言ゲームのようにどよめきが伝わってきた。

——え、すごくない？

——でっか……。

鉄二は菜々子と顔を見合わせた。モーゼのように人波を割って堂々と歩いてくる姉を、きょうほど誇らしく感じたことはない。

「お姉さん！」

菜々子が人目も憚らず姉に飛びつくと、姉は微動だにせず抱き止めてその場でぐるぐる回転した。あはは、と菜々子の笑い声。遠心力で浮き上がる身体は、手を離されれば円盤みたいに飛んでいってしまうだろう。

「菜々子、心配かけてすまんかったの」

「まず俺に言え。」

「ううん」

菜々子を地面に降ろし、頭を軽く撫でると姉は「行くぞ」と先陣を切った。金魚と同じ朱色のTシャツは、背中に黒くでっかく「チーム魔王」とプリントされている。

一次予選、二次予選、と順調に勝ち上がり、上位十チームで競う決勝戦に進むことができた。日々の練習の成果だ。

『それでは、これより決勝戦を行います。皆さま、準備はよろしいでしょうか』

小さい浴槽くらいの水槽に和金がうじゃうじゃ泳いでいる。これだけいはいくらでもすぐえそうなものだが、なかなかどうしてこいつらは甘くない。ルールはこれまでと同じく、三分間で何匹すぐえるかを競う。ポイは一本きり、破れたらそこでおしまい。水槽の長辺に並んだチーム魔王は無言のまま視線を交わし、頷き合った。

『位置について、よい、スタート！』

体育館にホイッスルが鳴り響くと、浅い水の中にポイを沈めた。胸が高鳴る。でも浮き足立ってはいない。自分の身体の隅々まで意識し、使うことができる。懐かしい、試合の感覚がよみがえってくる。

勝とう。

「すみません、地元のにこにこテレビの者ですがちょっとお話聞かせていただいていいですか？ 入賞はなりませんでした、大健闘の四位、おめでとうございます！ Tシャツといい、ものすごく目立つビジュアルのチームですね、皆さん、どういった関係なんですか？」

「勇！」

「えっ？」

「勇、よお聞け、すぐそちに戻るけえのう、お前が何と言おうがわしゃもう死ぬまで逃さんぞ、腹括って首洗うて待つとれ！」

「あ、あの」

姉が会場中の視線を独り占めしている隙に菜々子と外へ抜け出した。場内の熱気を逃れても、快晴の昼下がりはめまいを誘う暑さだ。屋台でかき氷を買い、歩きながら食べた。

「負けたねえ」

いちご味を選んだ菜々子が、さっぱりした口調で言う。

「でも、楽しかったからまあいいや。鉄二くんは？」

俺も、とメロン味を片手に鉄二は答える。現実は何ひとつ変えられない、でも、この夏、自分たちは忘れられない思い出を作った。それってすごいことだと思った。次の夏が同じように巡ってくる保証なんてどこにもないから。

「住谷さんと一緒」

「ふーん」

鮮やかに着色された氷をスプーンでがしがし掘りながら、菜々子は「てかき」と立ち止まり鉄二を見上げる。

「鉄二くんは、いつまでわたしを『住谷さん』って呼ぶのかなー？」

「え……じゃあ、住谷？」

「違うだろ」

姉にすこまれるより怖かった。

「……菜々子」

恐る恐る口にする「よくできました」と笑って赤い氷をひと口くれた。

スマホの通知で、きょうが甲子園の決勝だったと知る。誰かが勝ち、誰かが負けた。むくむくそびえる夏雲を頂く、摂氏三十六度の路上に人影はまばらだった。⁽⁵⁾ゲームセットのサイレンは空耳でささめ鳴らなかつたが、甘ったるい氷を噛む音が口の中でじやくじやく響いて、気持ちよかつた。

翌朝、テレビの前で「何でじゃー！」と雄叫びを上げる姉の姿があつた。

「何でわしのインタビューが流れとらんのじゃー！」

「あんなもん放送できるわけねえだろ」

犯罪予告にしか聞こえない。

「そもそもケーブルテレビだから、勇さんが見れるわけねえし」

「それを早う言わんか！」

「いや地元って言ってたし」

「ふたりとも朝からうるさい、お父さんチャンネル変えていい？ ……生後十カ月の赤ちゃん死亡だって、かわいそうにねえ」

きょうは、菜々子とプールに行く約束だった。菜々子の水着姿を想像してろくに眠れなかつたので、足がつかないか心配だ。入念に準備体操をしなければ。水着やタオルを用意していると、玄関でがらがらと車輪の音がある。鉄二は手を止め、どんどん遠ざかっていく騒音に耳を澄ませた。姉ちゃんの音だ。

小学校二年の時、スーパーで転んで腕を骨折した。姉は痛みに泣き喚く鉄二を買い物用のカートに放り込んで押し、病院まで爆走した。店員の制止も聞かず、がらがらと⁽⁴⁾ハデに地面を削りながら。

——野球できなくなったらどうしよう。

——大丈夫じゃけえ、鉄二、泣くな。姉ちゃんがついとるけえ。

大丈夫だよ姉ちゃん、と今度は鉄二が思う。奇跡は起こらない、起こらないから傍にいてやれ。最後には負けが決まってるシナリオでも、立ちあがるから魔王なんだろ。

※負けてばっか……鉄二と菜々子の二人にはそれぞれ、過去に思うようにならなかった経験があり、それをふまえての発言。

※金魚すくいの練習……鉄二、姉、菜々子の三人で金魚すくいの大会に出ることになっており、菜々子の実家の駄菓子屋で金魚すくいの練習をさせてもらっている。

問一——線①く④のカタカナを漢字に直しなさい。漢字は一画ずついいねいに書くこと。

問二——線①「勇の頑固が、魔王の頑固を挫いた」とありますが、それはどういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何もかもが嫌になってしまった勇の気持ちだが、回復を信じて諦めようという真央の気持ちにまいったということ。
イ かたくなに一人で余生を送ろうとしている勇が、二人で支え合って生きていこうとする真央の気持ちを踏みにじったということ。
ウ 未来のことを心配して離婚を強く望む勇の思いが、離れずに暮らしたいと願う真央の思いを上回ったということ。
エ お互いのためにも離婚をすべきだという勇の決意が、夫婦とは一緒にいるべきものだという真央の考えに影響を与えたということ。
オ 自分が弱っていく姿を見せまいとする勇の意地が、夫婦なら互いに弱さを見せるべきだという真央の考えを改めさせたということ。

問三——線②「途方に暮れた、魔王にあるまじき声だった」とありますが、本文からうかがえるいつもの姉はどのような人物だと考えられますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 周囲がどう思うかにとらわれず、強い意志を持っており、決断力と行動力にすぐれた人物。
イ 明るくユーモアに溢れており、独特な言い回しや表現で、周囲を笑顔にすることができ人物。

ウ 相手の気持ちを汲み取ることができ、目の前の状況を冷静に理解し、適切な行動をとる人物。

エ 自分に自信がなく、相手に寄り添おうとしてしまうがゆえに、なかなか強気に出られない人物。

オ 力がすべてだと考えていて、意に沿わないことがあっても、有無を言わず強引に解決してきた人物。

問四——線③「だったらせめて同じ水の中にいればいいのに」とありますが、この場面での鉄二の心情を説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 姉の状況を理解していない両親をもどかしく感じつつ、事態の改善に向けてできることから取り組もうとする姉に同情しながらも、目の前の状況に抗うことしかできないのだとしたら、せめて勇と二人で寄り添いながら暮らしていけばいいのにと考えている。

イ 姉の状況を理解していない両親をもどかしく感じつつ、目の前の現実から目を背けようとする姉に共感しながらも、解決策のない中でただ苦しむことしかできないのであれば、せめて夫婦でその苦しみを共有しながら過ごせばいいのにと考えている。

ウ 姉の状況を理解していない両親をもどかしく感じつつ、身体を酷使することで自らを奮い立たせようとする姉の気持ちを理解しながらも、それは現実から目を背けることで意味がなく、せめて夫婦で辛い現実に向き合っていけばいいのにと考えている。

エ 姉の状況を理解していない両親をもどかしく感じつつ、現実になかなか向き合うことができない姉の思いを受け止めながらも、完全に回復する病気ではないのであれば、せめて夫婦で痛みをやわらげる努力を地道にしていけばいいのにと考えている。

オ 姉の状況を理解していない両親をもどかしく感じつつ、身体を動かすことしかできない姉の考えを想像しながらも、ただただ苦しむしかない現実なのだとしたら、せめて周囲の支援を受けながら苦しみをやわらげていけばいいのにと考えている。

問五——線(4)「八月下旬、晴れた日曜の朝」とありますが、この日にあった「金魚すくい選手権」での経験を通して、勝負することに対する鉄二の見方は、どのようなものからどのようなものへと変化しましたか。七十一字以上八十字以内で説明しなさい。

問六——線(5)「ゲームセットのサイレンは空耳でさえ鳴らなかったが、甘ったるい水を飲む音が口の中でじやくじやく響いて、気持ちよかった」とありますが、この場面における鉄二の心情を説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野球を通して味わったやるせない思いは遠いものとなり、今年の夏はかつて思い描いた晴れやかな経験もできず、これまでの努力が実ることなかったが、お互いに協力しながら練習するという楽しい経験ができ、菜々子のことが理解できたことも含めて心地よく感じている。

イ 野球を通して味わったやるせない思いは遠いものとなり、今年の夏はかつて思い描いた晴れやかな経験もできず、満足のいく結果も得られなかったが、二度と経験できないような楽しい思いを残すことができ、姉や菜々子と対等の関係を築けたことも含めて心地よく感じている。

ウ 野球を通して味わったやるせない思いは遠いものとなり、今年の夏はかつて思い描いた晴れやかな経験もできず、未来につながることは何ひとつなかったが、目標に向かって努力したという点で貴重な思い出となり、菜々子のことをより知ることができたことも含めて心地よく感じている。

エ 野球を通して味わったやるせない思いは遠いものとなり、今年の夏はかつて思い描いた晴れやかな経験もできず、現実を大きく変えられただけでもなかったが、心に残る思い出を得るとともに楽しく過ごすことができ、菜々子との距離が縮まったことも含めて心地よく感じている。

オ 野球を通して味わったやるせない思いは遠いものとなり、今年の夏はかつて思い描いた晴れやかな経験もできず、具体的な変化をもたらしたこともなかったが、楽しみながら主体的に行動していくという大切な経験ができ、菜々子との関係が深まったことも含めて心地よく感じている。

問七——線(6)「勇者のもとへ、音を立てて帰れ、魔王」とありますが、このときの鉄二の心情を説明したものとして最もふさわしいものを次の

中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 骨折による痛みと野球ができなくなる不安で困りはてていたときに繰り返し大丈夫だと言ってくれたことを思い出し、姉らしく自身の言葉信じて勇に繰り返し語りかけ、自分のときのように奇跡を起こしてほしいと応援する気持ち。

イ 怪我をした痛みと野球ができなくなる不安で押しつぶされそうな自分の傍で大丈夫だと声をかけてくれたことを思い出し、たとえ回復が困難な状況であっても、勇の傍でかつてのように姉自身の思いを貫いてほしいと応援する気持ち。

ウ 転んだ痛みで泣き喚く自分をわき目もふらず強引に病院まで連れていってくれたことを思い出し、昔のように周囲の反対をもとせず姉自身の思いを押し通し、限られた時間を勇に寄り添って穏やかに過ごすことを思い出し、容易には回復するのが難しい状況であっても、最後まで希望を捨てずに勇を励ましながら歩いてほしいと応援する気持ち。

エ 転倒による痛みと今後の不安で困惑していた自分を傍で励まし続けてくれたことを思い出し、容易には回復するのが難しい状況であっても、最後まで希望を捨てずに勇を励ましながら歩いてほしいと応援する気持ち。

オ 腕を骨折した痛みとこれからどうなるか分からない不安で動揺する自分に対して大きく構えて安心させてくれたことを思い出し、病気の進行で自暴自棄になっている勇に対しても堂々と構え、二人で落ち着いた日々を送ってほしいと応援する気持ち。

問八 次のア～オは、この文章を読んだ生徒たちの感想です。本文の解釈として明らかな間違いを含むものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 真央の人物像が特徴的で魅力を感じました。本文の中で彼女だけが話す方言や大きな身体はインパクトがありますし、豪快な振る舞いは「魔王」を想起させます。そういったイメージがあるからこそ、勇についてのやり取りで見せた真央の不安・弱さが際立ちます。また、本文の最後の場面では、その姿から真央の内面的な強さが感じられ、変化しているとわかります。

イ ユーモアのある表現が心に残りました。たとえば、名前に関連させて勇者や魔王と表現している点や、真央の登場をモーゼにたとえる点などです。また、菜々子に謝罪する真央に対して「まず俺に言え」と心の中で思っている場面では、真央に対するツツコミとしてはもちろん、その言葉を実際に言うことはできない関係性を示す表現とも考えられ、思わず笑ってしまいます。

ウ 全体としては笑いを誘う表現や特徴的な人物の言動によって軽妙な印象を受けますが、ところどころに暗い表現があるように感じました。「二度の原爆忌と終戦の日」といった表現や、真央が出発するという前向きな場面での「生後十カ月の赤ちゃん死亡」という話題などです。これらは一次予選の受付の場面にある「暗い場所には果てがない」という本文の表現にも結びつけて考えられそうです。

エ 鉄二と真央の関係性が印象に残っています。弟と姉という関係、真央の性格などから、基本的には真央が主導権を握っていると考えられます。小さい頃の話では真央が鉄二を励ましていましたが、最後の場面で「今度は鉄二が思う」とあり、鉄二と真央の関係性が変化しています。大会当日の朝、鉄二が真央を励ましていたことも踏まえると、ふたりの関係性は興味深いです。

オ 語り手の果たす役割が大きいと思いました。本文の多くは鉄二の視点に近い位置で語られています。「犯罪予告にしか聞こえない」という表現では、鉄二の心配的な側面を示す心の声として読むことができます。また、鉄二に近い視点ゆえ、他の人物の心情はつかみにくい部分がありますが、だからこそ読者は補って読む余地があり、作品に奥行きをもたらしていると感じました。

二

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

制度上は平等な権利を与えられていても、男性と女性の間に権力関係が生まれ、男性が女性に対して優位に立つ。このような権力関係は、法律を中心とする公式の制度とは別に、社会の中に目に見えないルールが存在することに由来する。そのルールは、次のような形式を取る。

・男性は男らしく、女性は女らしくなければならない。

このルールを、一般にジェンダー規範と呼ぶ。ジェンダー規範は社会規範の一種であり、人間を男性と女性の二種類に分けた上で、それぞれの人に自らの性別に合わせて一定の仕方で振る舞うように命じる。

ジェンダー規範は、常に対になっている。例えば、一〇年、あるいは二〇年ほど前であれば、次のようなことが当然であるか、もしくは好ましいと考えられていた。男性は冷静沈着に、女性は感情豊かに振る舞うこと。男性はスポンを、女性はスカートをはくこと。男性は髪を短く切り、女性は髪を長く伸ばすこと。男性は仕事に行き、女性は家で子どもを育てること。つまり、

1

ある行動が、法律では許されていても、ジェンダー規範によっては許されていない場合、人はその行動を選択しづらい。服装は男女に関わりなく自由であるはずだが、男性がスカートをはいたり、女性が坊主刈りにしたりすることは滅多にない。悲しい時は涙を見せても良いはずだが、男性が人前で涙を見せることは珍しい。これらの例は、いずれもジェンダー規範の働きを表しているといえよう。

それでは、ジェンダー規範はどこから来るのか。一般に「本質主義(essentialism)」と呼ばれる立場に従えば、男らしさや女らしさは、男性と女性の生物学的な違いを反映して、自然に生じてくる。身長、筋肉量、脳の構造、男性ホルモンのひとつであるテストステロンの値など、男性と女性性は遺伝的に違いがあるのだから、両者に向いている生き方も異なると考えるのである。

しかし、この考え方には重大な欠点がある。確かに、平均的に見れば男性と女性には様々な違いがあるのかもしれないが、個々の男性の間の違い、そして個々の女性の間の違いは、男女の平均値の差に比べてあまりにも大きい。このような、それぞれに個性あふれる人々の行動が、ジェンダー規範の命じるような形で、男性と女性で明確に二つに分かれるとは考えにくいのではないか。そうだとすれば、ジェンダー規範は、決して人

間の生物学的な本性を踏まえたものではない。それは、何らかの形で社会的につくられたものであろう。

こうした考え方を、⁽²⁾構築主義(constructivism)と呼ぶ。人がジェンダー規範を身につける過程には様々な側面があるが、子どもが社会規範を学習する過程、すなわち社会化の過程が重要な役割を果たすと考えられてきた。家庭や学校など様々な場面で親や友人と交わす会話だけでなく、メディアとの接触などを通じて、人は男らしい、女らしい振る舞いを学んでいく。

ジェンダー規範は、男性と女性に異なる社会的な役割を与える。それを通じて生じる男性と女性の分業関係を、性別役割分業と呼ぶ。性別役割分業を定めるジェンダー規範は、⁽³⁾テンケイ的には次のような形式をとる。

・男性は、仕事に就き、家族を養わなければならない。女性は、家庭において、家事や育児を行わなければならない。

この規範は、「男は仕事、女は家庭」といった言い回しに表れてきた。それに従えば、男性は家庭の外で経済活動や政治活動に従事するべきであるのに対して、女性は家庭において家事や育児に従事する「良妻賢母」であるべきだということになる。

問題は、女性が男性とは異なる役割を与えられるだけでなく、男性よりも低い地位に置かれることにある。例えば、男性の仕事は対価が支払われる有償労働であるのに対して、女性の家事や育児は対価をとらなない無償労働となる。男性は「一家の長」として扱われ、女性はそれを補助する「内助の功」を発揮することが求められる。

こうして生まれる男性支配の構造は、家父長制(patriarchy)と呼ばれることもある。それは、独裁者が軍事力を用いて国を支配する独裁体制のような権力構造とも、企業の経営者が経済力を用いて労働者を支配する資本主義のような権力構造とも異なる、独自の権力構造である。

⁽³⁾ジェンダー規範のような社会規範が作用するメカニズムを考える上では、法的なルールとの対比が有効だろう。誰かが法律に違反した場合、警察に逮捕されることがや、損害賠償を求められることなど、何らかの物理的・経済的な制裁が加えられる。そうした制裁を避けたいと考えるからこそ、人々は法的なルールに従う。社会規範も、それに違反した人が制裁を受ける点では法的なルールと似ている。規範から逸脱した人には、無視されたり仲間外れにされたりするといった形の黙示的な制裁から、身体的な暴力を振るわれるといった明示的な制裁まで、様々な制裁が加えられる。

だが、社会規範と法律とは、違反によって生じる帰結が大きく異なる。法律の場合、違反に対する制裁は、国家権力に裏付けられている。一例を挙げれば、目の前で凶悪な強盗事件を目撃した人が、犯人を自分から捕まえようとすることは少ない。多くの人は、警察に通報し、事件の解決を⁽⁴⁾ユダねるだろう。これに対して、社会規範の場合には、国家権力の裏付けは必要ない。社会規範に違反している人を目撃した人は、その違反者を避け、冷たい態度を取るといった形で、自発的に制裁を加える。

個人による社会規範の執行には、感情の働きがともなう。ある社会規範を受け入れた人は、それに違反した人に対して軽蔑の念を覚える。自分がその規範に違反した場合には、逆に恥ずかしさや後ろめたさを感じる。このような感情の働きによって、社会規範は、国家権力に頼ることなく、人々の行動を制約する。

ジェンダー規範から逸脱した人も、負の感情に晒される。例えば、女性に対して男性が抱く女性蔑視の感情や、女性が自分自身に抱く自己嫌悪の感情を指して、ミソジニーという言葉が使われることがある。ミソジニーに直面しやすいのは、女性の中でも、とりわけ「女らしく」生きることを拒否する女性である。逆に男性も、「男らしく」振る舞うことができない場合には、「情けない」などと言われ、生きづらさを感じるようになる。

今日の日本では、「男は仕事、女は家庭」といった規範を正面から肯定する人は減ってきている。明示的な男女差別を行えば、たちまちマスメディアなどの批判の対象となるだろう。このため、企業や官庁の人事採用担当者は、自らの組織に必要な資質を持つ人を採用していると述べるだろうし、政治家の役職を決定する政党の幹部は、性別に関係なく適材適所で人材を起用していると述べるに違いない。このような事情もあってか、男性の多くは自分が特権的な地位を享受している感覚を持っていない。

それにもかかわらず、やはり世の中は男性優位である。家庭の外で政治活動や経済活動に携わる時、人は企業、官庁、政党など、何らかの組織に所属することが多い。それらの組織において、男性が女性よりも多く採用され、優先的に昇進していく現象が、広く観察されている。組織における性別役割分業は、家庭における性別役割分業を反映しているのであろう。例えば、経営者には男性が多く、秘書には女性が多い。パイロットには男性が多く、キャビンアテンダントには女性が多い。医師には男性が多く、看護師には女性が多い。どの組み合わせも、男性を女性が補佐する形になっている。なぜ、男女差別が行われにくくなっているはずの世の中で、男性と女性の地位に大きな違いが生じるのだろうか。

この現象を説明する上では、組織の規範が大きな役割を果たす。⁽⁴⁾いかなる組織であれ、その構成員には、一定の役割が期待される。その規範

は、次のように定式化される。

・この組織の構成員は、Xでなければならない。

通常、このXの内容は、性別によって定義されているわけではない。そこには、「冷静沈着」「質実剛健」「競争的」「積極的」「ヤシンの」などといった単語が入る。市場競争で勝ち抜いたり、権力を掌握したりする上では、これらの資質が必要であるという考え方もあるだろう。この考え方は、一見するともっともらしい。

だが、ここでXに含まれる資質は、多くの場合、「男らしい」と言われる性質と重なっている。たとえば組織規範が男性と女性を差別していなかったとしても、男性と女性に対しては社会の中で次のジェンダー規範が課せられている。

・男性は、Xでなければならない。女性は、Yでなければならない。

こうした規範に基づいて男女の性別役割分業を生み出す組織を、ジェンダー化された組織(gendered organizations)と呼ぶ。ジェンダー化された組織では、明示的に男性を優遇しているわけではない組織規範も、「男らしい」を優遇している。

このような視点から見れば、資本主義という経済システムそのものが、激しい市場競争をとまなうという意味で、「男らしい」と結びついている。これまで多くの日本の会社の社員は、会社のために深夜まで働き、上司と夜の街に繰り出し、辞令に従って転勤し、部下を叱咤激励して売り上げ目標を達成することを求められてきた。そのような組織の規範は、社員が会社に献身する陰で、誰かが家庭において家事や育児を担っていることを前提にしている。それが女性よりも男性に有利な規範であることは、言うまでもない。

男性はジェンダー規範の命じる通りに振る舞えば、組織の規範に従うことができる。これに対して、女性はジェンダー規範に従って行動する限り、組織規範に従うことができない。

その結果、女性は「ダブル・バインド」に直面する。ダブル・バインドとは、二つの矛盾する要求で板挟みになることを意味する。一方には、積極性があり、競争的な、「男らしい」行動を求める組織規範があり、他方には優しく、包容力のある、「女らしい」行動を求めるジェンダー規範

がある。例えば、会社で出世競争に勝ち抜くには、他人を押しつけてでも積極的に行動しなければならないとする。だが、そのような「男らしい」行動をとる女性は、「女らしくない」と言われてしまう。男性であれば「リーダーシップがある」と評価される行為は、女性であれば「偉そうだ」とみなされる。

つまり、組織の構成員が直面する規範は、実際には二重構造になっている。その基底には男性と女性に異なる振る舞いを命じるジェンダー規範があり、それを補う形で、組織の構成員に一定の振る舞いを命じる組織規範がある。この組織規範が表面上はジェンダー中立的であるからこそ、それ自体は批判の対象になりにくい。組織の構成員も、自分は男女差別をしているつもりはなくても、無意識の※バイアス(unconscious bias)の働きによって男性と女性に対して異なる基準を当てはめてしまう。こうして、男女を差別しないはずの組織において、大きな男女の不平等が生まれることになる。

(前田健太郎『女性のいない民主主義』より)

※バイアス……偏り。偏見。先入観。

問一 ― 線①③のカタカナを漢字に直さない。漢字は一画ずつにいねいに書くこと。

問二 1 に入る表現として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男性には活動的な振る舞いが、女性にはおしやかな振る舞いが要求される

イ 男性と女性に異なる生き方を勧める規範は、男女双方を苦しめている

ウ 男性的あるいは女性的な行動とは何かという定義は、時代によって異なる

エ 男性が女らしく振る舞うこと、またその逆は法的に保障されていない

オ 男性に何らかの行動を求める規範は、同時に女性には別の行動を求める

問三 — 線(1)「本質主義」、(2)「構築主義」とありますが、これらを説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「本質主義」は、男らしさや女らしさは自然に備わっているのだからあえて教える必要はないとする立場であるのに対し、「構築主義」は、家庭や学校をはじめ様々なメディアを通じて両性に向いている生き方を学ばせるべきだとする立場である。

イ 「本質主義」は、個々の人間の個性の違いよりも男女の平均値の差を重視して男女差別の見直しを図ろうとする立場であるのに対し、「構築主義」は、平均値の意味に疑問を投げかけてジェンダー規範そのものを否定していこうとする立場である。

ウ 「本質主義」は、身長や筋肉量をはじめとした生物学的な男女の違いをジェンダー規範の中心的根拠として見なす立場であるのに対し、「構築主義」は、逆にジェンダー規範があるから男女の遺伝的な差異が現れてくるのだと考える立場である。

エ 「本質主義」は、遺伝子など男女の生物学的差異を考慮して男らしさや女らしさが決まるのは当然だとする立場であるのに対し、「構築主義」は、男らしさや女らしさは社会生活のなかで後天的に獲得されていくものにすぎないとする立場である。

オ 「本質主義」は、ジェンダー規範が社会的に形成されたものであっても生物学的な本性に基づくならば問題ないとする立場であるのに対し、「構築主義」は、それが権力関係に結びついている以上は解消されなければならないとする立場である。

問四 — 線(3)「ジェンダー規範のような社会規範が作用するメカニズムを考える上では、法的なルールとの対比が有効だろう」とありますが、「社会規範」の特徴を、「法的なルール」と対比させながら、七十一字以上八十字以内で説明しなさい。

問五 — 線(4)「いかなる組織であれ、その構成員には、一定の役割が期待される」とありますが、「組織」の規範が「構成員」に期待することの説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア その人の性別にかかわらず、冷静沈着かつ積極的に競争すること。

イ その人の性別にかかわらず、組織の存続や発展に貢献すること。

ウ その人の能力にかかわらず、組織内における権力を掌握すること。

エ その人の能力にかかわらず、男女別に異なった言動をすること。

オ その人の能力にかかわらず、現行の経済システムを改革すること。

問六 — 線(5)「男女を差別しないはずの組織において、大きな男女の不平等が生まれる」とありますが、「男女差別をしないはずの組織」であるにもかかわらず、そうした「組織」において女性が不利であり続けているのはなぜですか。本文の内容にそって、八十一字以上百字以内で説明しなさい。なお、二文以上に分けて書いても構いません。

問七 次のア～オは、この文章を読んだ生徒たちが、二〇一五年の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の一つである「ジェンダー平等を実現しよう」に関連させて話し合っているものです。本文をふまえた発言として、明らかな間違いを含むものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最近、学校制服についての議論をよく耳にします。特に女子のスカートについては、動きにくさや防寒などの観点からも様々に議論されているようです。男性の私は今まで気に留めたことはありませんでしたが、男女それぞれに課せられた規範について改めて考え、ジェンダー平等の実現に近づくためには、このように身近なことでも意見を交わしていけたらいいと思いました。

イ 学校だけでなく、メディアの役割についても筆者は言及していました。例えばテレビ局も、男性を「一家の長」として扱い「良妻賢母」の女性を賛美するようなホームドラマに偏るのではなく、男女関係なく仕事や家事に活躍する姿を放送するなど、バランスのとれた番組編成をしたいと思います。そうすれば人々の意識も変化していくのではないのでしょうか。

ウ 男女関係なく活躍できる社会実現の一環としては、国会における女性議員の割合を増やすことも挙げられます。そのためには、男女問わずきちんとリーダーシップがとれて、選挙という競争を勝ち抜ける人を候補者として募集することを、各政党が表明するようにしたらいいと思います。そうすれば優秀な女性も立候補しようと決心しやすくなるのではないのでしょうか。

エ 政党だけでなく、企業や官庁といった組織においても、男性が女性よりも多く採用されていると述べられていたのが気になりました。それが本当なのだとしたら、女性の私はとても悔しいです。履歴書に男女を記入する欄がなくなったというニュースを聞いたことがあります。そのように、可能な限り性別が分からないようにして採用試験を実施したらいいと思いました。

オ 採用試験については私も気になりました。男女差別をするつもりがなくても無意識のバイアスが働くと思われていたので、自分自身が人を選考する立場になったときも注意しなければいけないと感じました。でも、ただだけ注意しても無意識にバイアスが働くのだとすれば、いっそのこと、データに忠実でバイアスが働かないAI（人工知能）による採用試験にしたらいいと思いました。

（問題は以上です）



令和四年度

国語解答用紙

渋谷教育学園渋谷中学校

※らんには記入しないこと

受 験 番 号				
				番
氏		名		

合計得点	※
------	---

↓ここにシールを貼ってください↓



問一	
①	
②	
③	
④	

問二	
問三	
問四	

[illegible]

問六	
問七	
問八	

二
問一
①
②
ねる
③

問二	
問三	

[illegible]

問五

[illegible]

問七	
----	--



303

5

303

5